



# 九条の樹

東久留米「九条の会」ニュース 第17号

2008年9月発行・東久留米「九条の会」

代表者 古田足日・連絡先 鈴木Tel.042-473-9489

<http://members2.jcom.home.ne.jp/hgsk9jk/>

## ◆私の主張

### 「強制集団死」のこと



この『九条の樹』14号に「東部九条の会」発足二周年の集いの報告がのつていて、「集団自決という言葉はカルト集団のそれと混同するので、『強制集団死』と表現を変えるべきとの指摘」があったと述べられている。この指摘にぼくは賛成したい。

ぼくがこのことばに出会ったのは去年六月沖繩へ行ったとき、丸木位里・俊さん共同制作の「沖繩戦の図」を保存・展示している佐喜眞美術館の受付で買った新城俊昭著「高等学校 琉球・沖繩史」（東洋企画）という高校教科書（あるいは副読本か？）の中である。

帰りの飛行機の中で読む。この本はきちんと琉球・沖繩の歴史を語った本だった。そして沖繩戦の叙述の中で一般に「集団死」と言うことばで表現し、それに「注」をつけていた。この「注」を抜き書きする。

「自決とは自らの意思で死ぬことをいう。沖繩戦では住民は軍事機密（日本軍の編成、動向や陣地など）を知っているため、軍に

よって死を強制・誘導され、互いに集団的な殺しあいや自殺で死んでいった。（略）この実態を「集団自決」という用語で説明することは不適當である。そのため本書では「集団死」の用語を使用した。」目が開ける思いがした。

雑誌『世界』七月号（07年）は沖繩戦の特集で、沖繩国際大学教授の石原昌家氏が「強制集団死」と「集団自決」のことをくわしく語っていた。氏は、防衛庁防衛研究所戦史室編集の『沖繩方面陸軍作戦』（朝雲新聞社1968年）に「集団自決」とは「日本軍の「戦闘員の煩累を絶つため崇高な犠牲的精神によりみずからの生命を絶つ者」と規定していることを引用して、日本政府の使う『集団自決』ということばには、『殉国死』したという『靖国思想』が込められている」と述べている。

佐喜眞美術館で見た「沖繩戦の図」には、いのちという人間の根源的な訴えが渦巻いていた。そして、この大きな絵の片隅に「集団自決とは／手を下さない虐殺である」という丸木夫妻のことばが記されている。美しい響きを隠している「集団自決」ということばにまどわされないよう、ぼくは「強制集団死」ということばを考えていきたい。

（児童文学者 古田 足日）

# 平和への取り組み

## 市民でつくる平和行事 in 2008



東久留米「市民でつくる平和行事 in 2008」が8月2日市民プラザホールで開催されました。

平和展示、市民による朗読劇「沖縄 南風の吹く日」、フルートとファゴットによるコンサートが行なわれ、会場は座る席もないほどいっぱいになり、平和への思いがあふれていました。

夏の平和行事として十数年前発足した市民朗読劇だが、「当時小さかった出演者が、大きく成長し、自から上演を決め、立派に成功させたことに感無量です」と指導にあたった楯岡さん（九条の会呼びかけ人）の挨拶があり、とても感動しました。また、九条の会が担当した「フルートとファゴット」の演奏が「とてもよかった。心がなごんだ」との感想が多数寄せられました。

### 背中 押されて (楯岡 眞弓)

市民参加の平和朗読劇14年目の今年、嬉しい異変?!が起きました。何人もの若者たちの参加です。小学生のころに親と一緒に、祖父母にとりうように誰かに連れられての参加だった彼ら・彼女らが、高校生・大学生となった今、自らの意思で、戦争のこと、平和のこと、そして自分自身としっかり向き合おうと参加してきたのです。それぞれの成長振りに目を見張るようです。心身ともに大きく成長した一人ひとりの様子に、稽古の中心が違っています。文字だけを追い、読むことに精一杯だった数年前の子どもたちは、同じその言葉を、わずかなアドバイスで深く読み取り、自分のものとし、理不尽に命を奪われていった同年代の人々の声をしっかりと伝えていきます。驚きの連続です。14年という月日はこんなにもすばらしい子どもたち、若者たちが育ってきた年月だったのですね。彼らに力強く背中を押されました。

## 90%の人が「九条変えない!」

（東久留米駅前でシール投票）

8月9日（土）の「9の日宣伝」は午後4時から一時間「九条シール投票アンケート」を行ないました。各地域から17名が参加。ハンドマイクでの宣伝や、チラシ配布なども行ないました。

パネルにシールを貼る投票アンケートには、101人の通行人が足を止めて投票、



「九条改定」に賛成は3人、反対は92人、わからないが6人でした。若いカップルもパネルの前で考え込み「九条を知らない」というので会のメンバーがいつ

しょうけんめい説明も。宣伝に始めて参加した女性は、「駅の通行人のビラの受け取りがいいのに驚いた」と言っていました。

「9の日宣伝」は毎月9日夕方4時から駅西口で行なっています。誰でも参加できますのでよろしくお願いします。

（鈴木）

印象深かった被爆の証言と原爆資料館

ナガサキ平和代表団として、祈念式典に参加してきました。三日間の滞在の中で、初日の被爆者の方から直接目の前で体験を聞かせていただいたことは、最も心に響く経験でした。そのときのことを語ることがどれほど辛いことなのか、ひと言ひと言を語ることで情景が目の前に蘇ってきてしまうその辛さが、じつくりと語る口調から察せられました。死体を見ても何も感じることはできず、ただ白骨化していくのを見ていたという。放射能による体調のつらさとともに、心を閉ざさなければくぐり抜けて来られなかった体験だと感じました。

家族親族20人近い同居していた人々の中でやっと生き抜いてこられたのは、弟さんと二人。その弟さんが被爆後50年たった時に訪れた被爆による死によって、残された者の責務として、人前で語りだしたそうです。今でも体験の恐怖から逃れられずに語るこ



被爆者の証言を聞く

とのできない方がいる中で、勇気を持って語っていただいたことはとても貴重な体験でした。また、原爆投下の地、長崎で聞いたことが、追体験のように心に響きました。



爆発はこの上空500m 爆心地

もうひとつ忘れられないのは、原爆資料館です。様々な遺品、証言から、なぜこんなことを人間が行なったのか、憤りを感じました。そして、その後にあった展示、現在に至るまでの全世界の核弾頭の保有数(27000発)と、核実験が2000をこえる事実、愕然となりました。なぜ、いまだに放射能による被害をふやそうとするのか、なぜその恐ろしさ、愚かさに気がつかないのか。「人類と核は、決して共存できない！」

世界で唯一被爆国である日本が、世界中で最もその被害の悲惨さを知っている国です。その犠牲の上に世界に誇れる平和憲法を持つことができたとも言えるでしょう。もしこの平和憲法を手放すことがあったな

ら、被爆の犠牲者をもないがしろにする事になるでしょう。

(大山 智子)

◇市内の取り組み

○西部九条の会

連続講座「語り合おう 今と憲法」  
第1回は「つくりだされた貧困と憲法」をテーマにトーク・交流会を開催します。  
9月14日午後2時～4時

西部地域センター講習室2・3

○キリスト者九条の会

毎月第一月曜日定期集会  
午後1時30分～4時 喫茶「アコルデ」  
現在日本国憲法を学生用のテキストを使って一章づつ学習と交流。

○小山・さいわい九条の会

8月31日DVDで「日本国憲法」の学習

○前沢・南町九条の会

「憲法を読む会」を開催します。  
10月19日(日)午後1時～4時

講師 塚田薫氏(亜細亜大非常勤講師)

◇その他の取り組み

○九条の会東京連絡会(仮) 発足記念集会  
10月24日(金) 18時30分～ 豊島公会堂

○九条の会全国交流会

11月24日(月・休) 午前10時30分～  
日本教育会館(千代田区)

私の被爆体験記

地球が爆発したかと思つた。被爆瞬間の実感である。広島市松原町、即ちJR広島駅前の旅館の一階大広間で、数人の軍人等と世間話をしながら朝食を取っていた時である。

昭和二十年八月六日午前八時十五分「ピカッ」と強い光が玄関の方で閃いたので、朝から照明弾を落とすとはおかしいと思いつながら、体は玄関のほうに飛び出していた。当時は歩道に防空壕が掘つてあったので、それを目指しての瞬間的な行動であつたように思う。その次に「ドン」と爆発音があつたらしいけれど、私はその「ピカドン」のドンの音を聞いていない。あまりにも大きい音に耳も圧迫されたのであろう。閃光とともに道路に飛び出したら、道路は暗黒の世界で、右の頬に爆風を感じたので、すぐに左を向いて目と耳を両手で塞いで（爆撃を受けた時の防護訓練で日常行なっていたものを実行）打ち伏せていた。その瞬間の行動の間に、私の脳裏をよぎつたものは「地球が爆発したのではないか」ということだつた。というのはそれまでも数回爆

弾や焼夷弾の洗礼を受けているから、ある程度の認識はあつたのである。これは単なる爆撃ではないと思つたのである。暗黒の世界で、広場を求め新しい空気を求めて少し歩き始めたがすぐに呼吸困難となり「南無阿弥陀仏」と称えながら意識不明となり倒れたのであります。ところが数分後にふと意識が回復し自分で呼吸をしているではないか。爆煙は上に、土煙は沈下し自由に呼吸ができるようになったのである。生きていることをはつきり認識し、倒れた時のままの姿勢で空を見上げたら、そこに大きなきこの雲が浮かんでいた。やがて立ち上がったあたりを見回したら、言葉に言い尽くせないあの惨状である。

被爆した人びとも高年齢となり段々少なくなつていきます。この事実は決して風化させてはならないものであります。核廃絶を願いつつ筆を措きます。

（八幡町 興栢 次房）



◆お知らせ◆



東久留米「九条の会」交流会

東久留米「九条の会」が発足してから3周年。本町・中央町九条の会が10月5日には設立のつどいが開かれるはこびとなり、これで市内全域に「地域九条の会」ができました。市内の「職域九条の会」も含め、交流会を開催します。皆様お誘い合わせの上ご参加ください。

日時 10月26日（日）午後2時から

場所 成美教育文化会館3階・研修室1

・記念講演「名古屋高裁判決」について

・事務局からの報告

・各会からの報告

・意見交流 これからどう取り組んでいくかなど、活発なご意見をお寄せください。

《募集しています！》

東久留米「九条の会」ニュース『九条の樹』では賛同者の皆様の、ご意見ご感想、また戦争体験など、投稿記事を募集しています。事務局までお寄せください。